



Support

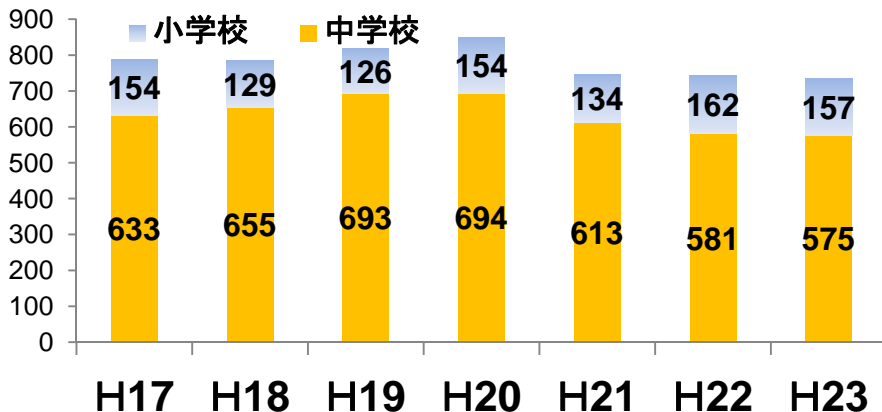
No. 3

平成24年9月11日

編集・発行

学校支援課 広報担当

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html/>



平成23年度不登校人数
 全体的には
 減少傾向

小学校の不登校児童数は、22年度に比べ5人減少しました。しかし、まだ過去6年間で2番目に多い数値となっています。発生率も昨年度と同じ0.37%で、依然全国平均の0.33%より高い状態です。
 引き続きの取組をお願いします。

中学校の不登校生徒数は、22年度に比べて6人減少しました。これは、過去6年間で最低の人数です。発生率も0.13%下がって2.62%になりました。過去6年間で初めて全国平均の2.78%を下回りました。
 各校の取組に感謝いたします。

「不登校未然防止中学校区プロジェクト」から 「生徒指導ネットワーク会議」へ（取組例）



＜ネットワーク会議①＞
 ・小学校4年から6年まで全欠だった生徒が、小中の情報交換を密に行い、訪問相談員がいっしょに登校した結果、中学校1年の7月まで欠席無しとなった。

＜ネットワーク会議②＞
 ・区の相談室がこまめに学校訪問を行い、不登校・不登校傾向の児童生徒の対応について学校へ支援を続けている。

欠席や遅刻に敏感な学校
 深い児童生徒理解ができてい学校
 月別欠席報告の見直し
 欠席管理方法の自校化
 中学校区の連携の継続

不登校・不登校傾向児童生徒の月ごとの変化を分析
 （学校支援課）



＜ネットワーク会議③＞
 ・家庭生活が安定せず欠席を続ける児童生徒に対して区の健康福祉課職員と連携し生活支援と相談をした結果、登校できるようになった。

ケースに応じた多様な登校支援

- ・教育相談センター
- ・区担当指導主事
- ・児童相談所
- ・健康福祉課
- ・教育相談室
- ・SST, SSW
- ・県警サポートセンター
- ・学校支援課担当指導主事
- ・訪問相談員
- ・民生児童委員

子ども一人一人の成長を促す生徒指導の視点から、不登校を現象としてらえるのではなく、全職員が全教育活動で子どもの心に沿った見取りや指導を行うようなシステムを目指します。

リーフレットで授業力アップ!!①

学習課題は子どもとともにつくる ～国語～

「ふろしきはどんなぬの」平成24年6月 大形小学校 2年 授業者 松尾 英子 教諭

大形小学校では、授業づくりリーフレットに基づいた授業改善を全校体制で進めています。松尾教諭の授業では「問題解決過程を意識した学習展開」と「子どもとともにつくる学習課題」に、そのエッセンスが現れていました。

子どもの問題意識を整理する



子どもの意識から学習課題を設定する



子どもの中に「問い」を生み出すためには、教師から一方的に課題を与えるのではなく、子どもの問題意識を大切にしながら、子どもとともに学習課題をつかっていくことが大切です。松尾教諭は、「クイズをつくる」という学習課題に向けて、まず、修正の必要な箇所を含む3つの例を示し、その分析を通してクリアすべきポイントを子どもとともに明らかにしていきました。こうした丁寧な取組により、子どもの中に課題解決への見通しと意欲が生まれました。 <文責 田村 篤>

人・もの・こととのかかわりを重視し、問題解決的な学習を展開する ～理科～

「チョウを育てよう」平成24年6月 赤塚小学校 3年 授業者 渡部 康司 教諭

渡部教諭は、上記の視点から、次のような授業を構想しました。

- (1) モンシロチョウとアゲハを卵の段階から各自に飼育させて、学習対象とかがわる時間を確保する。
- (2) 自分が発見したことを、友だちに伝えたり、友だちと確認したりする活動を重視する。

授業では、子どもたちが親しみをもって幼虫にかかわり、体のつくりをとらえ、さらには、幼虫の行動の意味までも解釈しようとしていました。

渡部教諭は、子どもの細かな気づきをノートに記述させた後、それを大型テレビを使って映し出し、説明させました。



「わあ～、数mm大きくなったみたいだ！」
「この幼虫は、柔らかい葉を探して動いているんじゃないかな。」

人・もの・こととのかかわりを重視し、問題解決的な学習を展開するためには、教材の価値を、子どもに気付かせていくことが大切です。特に、「命」ある生物教材には多くの価値が内在しますが、教材の準備が、授業の成否を決めることがあります。渡部教諭は、単元の実施時期を年間指導計画に適切に位置付けることで、対象とのかかわりの効果を高めていました。 <文責 永井 喜博>

協議会には、一人一人がしっかりと自分の考えをもって!! ~協議会~

矢代田小学校では、職員一人一人の研修を深めるため、授業後の協議会(7月12日、6年・国語)において、次のような工夫を行っていました。

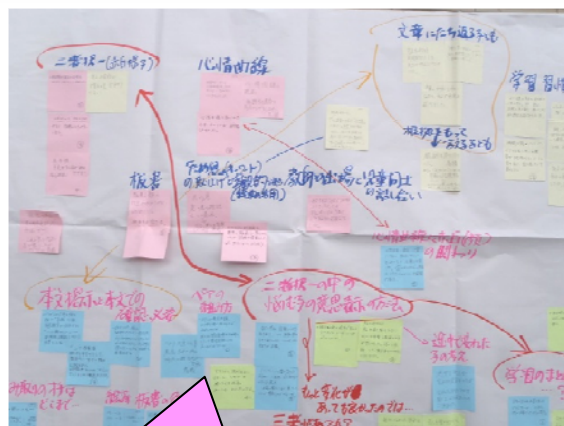
- ・授業の前に、「協議の視点」を設定しておく。
- ・授業に対する意見等を全職員が付箋(数枚)に書き、それを模造紙に整理しながら、協議を進めていく。
- ・協議会は職員一人一人が十分に意見が出せるよう、少人数でのグループ協議と全体協議で構成する。

このような協議会の工夫をしている学校は、ほかにもあることと思います。しかし、大切なことは、

一人一人がその授業について自分の考え、評価をしっかりとって協議会に臨む

ということです。せっかくの付箋が、時間のない中でとりあえず書いた、というものであっては協議も深まらないからです。

矢代田小学校では、協議会が始まって最初の10分ほどを付箋に書く時間に充てることで、一人一人がしっかりと自分の考えをもって話し合いに臨むことができました。その結果、協議会でも活発に意見が出されました。



授業づくりリーフレットに書かれている5つの視点や、具体的なポイントは、互いの授業を見合い、評価し合う際の視点にもなります。ぜひ、リーフレットの視点に沿って、「協議の視点」を立て、互いの授業を評価し合ってください。

〈文責 川又 健司〉

生徒指導にも、リーフレットの活用を!!

いじめが発生したときの対応は確実・丁寧!!

学級や学校でいじめが発生しないために、生徒指導を充実させることは重要です。しかし、いじめを全くなくすことは難しいと考えられます。重要なのは、いじめが発生したときの対応です。

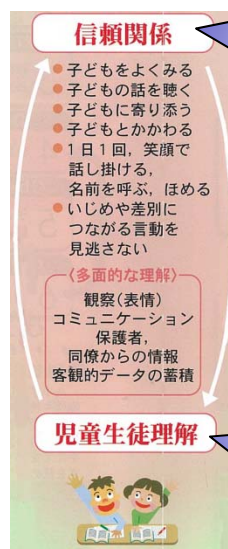
いじめの対応で留意すること…

- ・とにかく初動が大切。いじめを認知したらすぐ動くことが原則。
- ・事実確認を確実に行う。一方的な話だけでなく双方から事情を聞き、客観的事実をつかむことが肝心。
- ・組織的な対応を心掛ける。一方的な見方・考え方をしない。
- ・保護者には、客観的事実をもとに、適宜報告する。できれば子どもも一緒に対面で話した方が誤解を生じない。

〈文責 佐藤 文俊〉

いじめが発生しない

学校・学級づくりのベースは
多面的な児童生徒理解に
基づく信頼関係から



問題解決には子どもとの信頼関係が不可欠です。日頃から信頼を得るような関係づくりを大切にしましょう。

信頼関係は多面的な児童生徒理解から生まれます。日頃から子どもの変化を見逃さない眼をもつことが重要です。

平成24年度 新潟市国際交流推進事業

～中国ハルビン市韓国ウルサン広域市青少年代表団新潟市訪問～

7月14日(水)から7月18日(日)まで、中国ハルビン市と韓国ウルサン広域市の小学生4人・中学生6人・高校生7人と引率の先生7人による青少年代表団が新潟市を訪れ、新潟市内の児童・生徒と交流を深めました。主な日程は、次のとおりです。



巻南小学校での授業体験

- 11日(水)来日
- 12日(木)市長・教育長表敬訪問、学校訪問(巻南小学校)
市内見学(しろね大凧と歴史の館)
- 13日(金)市内見学(朱鷺メッセ・新潟市水族館)
学校訪問・国際子どもフォーラム(黒埼南小学校)
- 14日(土)市内見学(せんべい王国, 北方文化博物館,
新潟ふるさと村, 新津美術館)
- 15日(日)帰国



黒埼南小学校での歓迎アトラクション(棒踊り)

- ・巻南小学校では、各クラスで給食を一緒に食べた後、児童と一緒に特別授業に参加して、ゲームや活動をしました。全校児童との交流会では、歌や演舞等の披露をしました。
- ・黒埼南小学校では、のっぺや枝豆ご飯などの給食に加えて、地域特産の黒埼茶豆がふるまわれました。国際子どもフォーラムでは、黒埼南小学校の全校児童、黒埼地区の小・中4校、市立中等教育学校及び市立高等学校3校の代表児童生徒が参加し、中国語・韓国語でのじゃんけんゲーム等を行いました。また、歓迎アトラクションとして、黒埼南小学校の児童が棒踊りや花笠踊りを披露。青少年代表団からも、歌や演舞、自国紹介等の発表があり、互いの理解と親睦を深め合いました。

平成24年度幼稚園教員研修会

8月10日(金)秋葉区役所を会場に公立幼稚園・公立保育園・私立幼稚園の職員108名が参集して開催されました。

この研修会は、特別支援教育についての理解と指導力向上を目的に、毎年専門の先生を招聘して、研修しています。

今年度は上越教育大学臨床・健康教育学系特別支援教育コース講師の村中智彦様から「発達障がいのある園児の就学に向けたつなぐ移行支援の実際」というテーマで講義をしていただきました。

村中先生の豊富な臨床の中から、事例を動画で提示されたり、参加者を子ども役に見立てて具体的な場面状況を再現したりして、とても分かりやすく説明していただきました。幼児教育の場で特別な支援を必要とする子どもたちの実態を見取り、保護者理解を促し、速やかに適切な指導や対応をすることの重要性を認識するとともに、子どもの成長にとって本当に必要な支援は何かを考える機会になりました。



熱心に聞き入る参加者たち